



みんなのできる 地球温暖化防止活動

「がまんしないエコ生活」で、推進員活動を進めています!!

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

令和元年東日本台風（台風19号）

須賀川市で浄化槽管理士として仕事をしている福島県地球温暖化防止活動推進員の水野榮さんは、異常気象や自然災害が頻発していることに危機感を募らせています。2019年10月に発生した台風19号の時は、西川水位観測所（釈迦堂川）では6・77mの最高水位になり、家屋の浸水被害は全壊155棟、半壊675棟、一部損壊232棟、2人が犠牲になり183人が救出されるといふ甚大な被害を受けました。

■推進員になったきっかけ

「浄化槽管理の仕事をしていますと、人間が生活する中でどうしても出てくる汚物や生ごみを目にするのようになります。ごみを焼却するためには重油や電気などたくさんエネルギーが必要になります。その結果、地球温暖化の原因である二酸化炭素（CO₂）の排出が増えてしまいます。どうにかならないものか」とい

う思いから、推進員養成研修会を受講して、2015年12月に推進員になりました。「何か行動を起こしたいという気持ちが強くなったからです。」

■住民団体「ストップ温暖化ネットワーク」

水野さんは行動派です。2024年4月20日には、須賀川市内の仲間たちと一緒に、「ストップ温暖化ネットワーク」を設立し、言い出しつぺの水野さんが会長に就任しました。やはり水野さんが会長を務める「須賀川の防災を考える会」（2017年設立）と両輪の活動を目指します。2008年には防災士の資格も取得しました。

■みんなのできる地球温暖化防止活動

「大切なのは、がまんしないエコ生活です。家庭ではコンポストを用いた生ごみの肥料化や天ぷら油の回収です。地域では農道の維持管理や草刈り、ごみ拾いをする。住民団体を設立した目的は、このような活動を小中学校や須賀川市民交流センター「tetete」、地域の公民館などで普及啓発を行い、がまんしないエコ生活を実践する市民を増やしていくことです。」

地球温暖化やごみ問題を「見える化」し、地域のみんなが意識を変え行動を起こすきっかけを作りたいと言います。「住みやすい、環境の良い地域を作ることが、結果として地球温暖化防止につながります。」

(Web) <http://fukushima-ondankapoushi.org/>